

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500255		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム ゆめの里		
所在地	山口県周南市五月町6-25		
自己評価作成日	平成27年5月20日	評価結果市町受理日	平成27年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年6月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年7月に開設しました。比較的介護度が低い方が多いため、今持っている力を最大限発揮できる場作りを心がけ、お一人お一人が活躍する場を日々持つことができ、生き生きと過ごすことができるよう支援しています。毎日職員と入居者さんがゆったりと過ごす時間を持つことで、なじみの関係を作り上げ、職員全員が「この人がいるなら、ここは安心できる」とご家族やご本人に言っていたりするような施設になりたいと、職員一同日々頑張っております。今の介護度が、半年後も、1年後も上がることはないように、体力面、精神面でサポートしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会の回覧版を利用して地域の人に避難訓練への参加協力を依頼され、年2回の避難訓練に住民の参加を得ておられます。子ども会がハロウィン行事で来訪された折に、利用者も仮装して待ち受けて、子どもたちを楽しませたのをきっかけに、子供会の訪問先としてのお付き合いが始まり交流しておられます。事業所のラジオ体操の音楽を聞いた住民からの「一緒に時間帯に体操したい」という要望に応じて、時間を決めてそれぞれが体操に取り組み、手を振りあって交流されるなど、地域とのつき合いを大切におられます。「見に行きたいね」との利用者の言葉をとらえてのコスモス見物や墓参りに行きたい利用者のための歩行練習、ぬか漬けづくりなど、職員は利用者の思いを把握され、支援に取り組まれています。日々の食事を利用者と一緒に調理しておられ、おやつづくりや行事食など食の楽しみを含めて、利用者の活躍の場をつくっておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、地域の方々ともに笑顔あふれる家庭的で穏やかな生活を目指します」と基本理念で謳っています。開設して1年足らずと新しい施設ですが、職員が理念を共有し、地域の方々とのつながりを築いていく努力をしています。	「・私たちは、地域の方々と共に笑顔あふれる家庭的で穏やかな生活をめざします・私たちは、入居者さんのその人らしさを尊重し、自立を支援します・私たちは、入居者さんの健康に留意して、いつまでも安心して快適な暮らしができるよう、お手伝いします」という法人他事業所の理念を事業所の理念とし、事業所内に掲示している。開設時に管理者が全職員に理念を書いた用紙を配って説明している。月1回のスタッフミーティングで理念について話し合い、理念を実践につなげるよう努めている。	・事業所独自の理念の検討
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、避難訓練等の際にはご近所の方々にお知らせをして協力を仰いでいます。また地区の子ども会の来苑が年に数回企画されています。個別レクでご近所を散歩し、ご挨拶を交わし地域に溶け込めるよう支援しています。	自治会に加入し、管理者は自治会の清掃活動に参加している。自治会長を通じて事業所の避難訓練への協力依頼の文書を回覧版で回し、年2回の避難訓練に住民で元消防署職員1名の参加を得ている。事業所で行っているラジオ体操に合わせて近所の人が自宅でラジオ体操を行い、事業所の利用者や職員に手を振るなどの交流がある。散歩時に地域の人と挨拶や会話を交わしている。介護相談員(月1回)やフラダンス、民謡、カラオケ等のボランティアの来訪がある。子ども会のハロウィンの一行が来訪し利用者も仮装をして歓迎し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学、ご相談は常時承る体制作りをしています。ご近所の民生委員の方に運営推進会議のメンバーになっていただき、施設の情報を広く発信していただけるようお願いもしています。いつでも気軽に相談できるオープンな施設を目指し努力しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価については職員全員にコピーを渡し記入してもらい、意見を反映しています。外部評価の意義、目的、日ごろの介護にその結果をどのように活かしていくかを、定期のミーティングで説明しています。全員が共通理解の下、評価の結果を受け取り、改善策を講じていく予定でいます。	自己評価は管理者が評価の意義について説明し、全職員に自己評価のための書類を配布し、記入してもらったものをまとめて全職員に閲覧して意見を加えてもらい作成している。職員は評価の項目と日頃の取り組みのつながりを理解し、これまでのケアの振り返りとして捉えている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、行事報告、事故報告、運営状況を伝え、参加の方々の意見を頂いています。会議の内容については必ず職員全員に伝えています。また改善すべき点などを会議で出た意見を参考にして職員で話し合い、サービス向上に活かしています。	2ヶ月に1回、地区社会福祉協議会会長、民生委員2名、市職員、家族代表1名、認知症を支える家族の会副会長、地域包括支援センター職員、法人代表、管理者をメンバーとして開催し、運営状況、行事報告、事故報告などを報告し情報交換をしている。欠席したメンバーには議事録を送付している。メンバーの意見から、資料を写真入りにしてわかりやすくしたり、事故報告の様式を改善している。管理者は月1回のスタッフミーティングで会議の内容について報告し、メンバーからの意見(体験談)をケアに反映させるなどサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター、市役所高齢者支援課の職員が運営推進会議に参加されています。会議において、現場の実情を正直に伝えていきます。事故の対策などについて参考になる意見を多々頂いています。今度も協力を仰ぎながら協働関係を築き上げていきたいと思っています。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、年1回の集団指導の他、直接出向いて相談をし助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、文書等で連絡し、情報提供を受けるなど連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵はかけず、常に出入りが自由になっています。ユニットで入り口の施錠していますが、夜間、職員一人の時間帯にと、最小限に留めておく努力をする必要があると思っています。身体拘束は0です。言葉かけなども「座っていて」「動かないで」という職員都合の言葉は使わない様細心の注意を払っています。	法人のマニュアルがあり、年1回、身体拘束についての法人研修を受講し資料を閲覧している他、月1回のスタッフミーティングや日常業務の中で管理者が職員を指導し、全職員が理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。通常は玄関やユニットの戸は施錠していない。外に出たい利用者には言葉かけに工夫して、職員と一緒に外に出るなど支援をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については法人内研修で学びました。今後も定期的に学ぶ機会を設けていきたいと思っています。施設内では虐待が見過ごされたり、行うことは全くありません。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで制度について学ぶ機会を設けませんでした。利用者様の中には、今後成年後見制度を利用する方も出てくるかもしれませんので、職員全員が学ぶ機会を設けることが今後の課題です。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に管理者が、ご家族とともに利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、その都度疑問に思われることに対し、丁寧に説明を行っています。ご家族、及び保証人の方は契約の内容を十分理解納得され、締結しています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーにご家族代表の方も入っていただき、意見を承っています。どんな些細な相談事でも職員全員が情報を共有し、ご家族との信頼関係を築けるよう努力しています。何でも話すことが出来る雰囲気作りを目指しています。	相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時に家族の意見を聞いている他、日頃から家族が何でも言えるように配慮している。利用者が外出を好むので外出の機会を増やしてほしいという家族からの要望があり、外出レクリエーションを多く企画するなど、意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングを月に一度行い、職員の意見や提案を聞いています。ボトムアップが大切と考えておりますので、できる限り職員の意見を反映して行きたいと思っています。	月1回のスタッフミーティングで職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常業務の中で職員の意見を聞いている。季節に合わせた壁飾りの制作やプランターでの野菜の栽培、外出行事、誕生日会の企画など、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇が導入されています。また研修参加によりボーナスアップ、年度ごとの昇給など職員が向上心を持てるよう条件が整備されています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、施設内研修をそれぞれ月に一度行っており、職員の殆どが参加しています。また定期の研修とは別に介護福祉士の勉強会なども法人で行われています。職員全員が6名と小さい組織なので、管理者はそれぞれの力量を把握しており、必要と思われる研修の参加を促しています。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修は月1回、職員や外部講師が講師となってケアプラン、デイサービスとは、感染症対策、防災、身体拘束、口腔ケア、緊急時の対応、栄養、虐待、認知症、事例報告、事故対応などのテーマで全員参加で実施している。参加できなかった職員には復伝をしている。内部研修は、月1回のミーティング時に、法人研修の内容を事業所の実状に合わせて学んでいる。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はありますが、他施設との交流はまだありません。近くに様々な事業所がありますので、交流する機会を設けていくことが今後の課題となります。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で、ご本人の不安に耳を傾け、ご家族の意見も伺い、居宅のケアマネとも協働して情報を収集しています。職員全員で情報を共有し、ご本人、ご家族との信頼関係を築くことができるよう、努力しています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、ご家族のお困りごと、不安や要望を聞き取り、職員全員で情報を共有し、信頼関係を築くことが出来るよう努力しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人が本当に必要としているサービス、待ったなしのサービスを、事前の面談で丁寧に話を聞き取り、見極めることが出来るよう努力しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業、食事をともにに行い、テレビを観たり嬉しいことも時には不愉快なこともともに共有し、共感することが出来るよう、常に傍らに寄り添う介護を心がけています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要があればいつでもご家族に連絡し、そのときの状況の説明をし、時には相談をするときもあります。毎月写真つきのお手紙を郵送し、ご本人の様子を定期的にお知らせして、情報を共有しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	選挙の際にはなじみの場所なじみの地区の方々に出会うことが出来るように選挙当日に地区の投票所へ出向いていただく支援をしています。	家族や親せきの人、友人などの来訪がある他、年賀状や電話での交流を支援している。利用者の地元での桜の花見や、選挙の投票に行って立会人や投票に来た馴染みの人と交流している。歩行訓練をして墓参りを実現したり、父親の仕事場があった馴染みの海の景色を眺める外出を企画するなど、馴染みの人や場との関係が継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレク参加や家事作業の依頼など、協働作業の場を提供し、お互いコミュニケーションが取れるよう支援しています。男性入居者が多く、時に言い争いなどもありますが、職員が間に入り一定の距離を保ち、未然に防ぐ努力をしています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方が2名いらっしゃいますが、ご家族からの連絡があれば、誠意を持って対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にご本人に寄り添う介護を心がけ、ご本人の想いを聞き取る努力をしています。そのときの言葉、表情などを記録に残し、職員間で情報を共有して、サービスに活かせるよう、検討しています。	入居時のアセスメントで本人や家族から聞き取りをした利用者一人ひとりの基本情報を全職員に配布して、日頃の気づきを書き加えるようにしている他、利用者の日常の言葉や表情をケア記録に記録してし、思いや意向の把握に努めている。把握の困難な利用者には、職員同士で情報交換したり、家族の話を元にスタッフミーティングで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り調査で、生活歴やなじみの暮らし方、これまでのサービス利用の経過を把握します。また入居された後でも、ご家族やご本人からの情報に耳を傾けています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況、身体状態については、バイタルチェック表に記録しています。また日常的に行う家事作業や、生活レクの中で、ご本人のできることを探し、力を発揮された際には記録に残し、職員間で情報を共有して、日々変化する心身状況に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケア記録では言葉や表情など細かに記録し、日々ニーズを探っています。ご家族の要望も丁寧に聞き取り、課題を把握して、職員間で話し合い、現状に見合ったプランが作成できるよう努力しています。	本人の思いや家族の意向、かかりつけ医や看護師の意見を参考にして職員間で話し合い介護計画を作成している。ケア記録を基に毎日モニタリングを行い、月1回のカンファレンスで利用者を担当する職員を中心に検討している。短期目標を3ヶ月に1回、長期目標を6か月に1回見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人のちょっとした変化や、表情の違いなど、気がついたことはどんなことでもケア記録にあげるようにしています。対応の成功例も失敗例もすべて職員間で情報を共有し、柔軟に対応できるようにしています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時、緊急時には24時間オンコールで施設ナース、医療機関と連携し指示を受けることが出来ます。また医療提携医院以外の医療機関への通院も支援しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周南市の介護相談員さんが月に一度来苑し、入居されている皆さんの話を聴いてくださっています。フラダンスのボランティアにも呼びかけくださり、年に数回慰問に来ていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族、ご本人の希望に沿って行っています。受診付き添い時にはご本人の普段の様子やバイタルチェック表の写しを持参し、診断に役立てていただける情報を提供して、信頼関係を築いています。	協力医療機関をかかりつけ医とし、全ての利用者が2週間に1回の訪問診療を受けている。受診時には月別に記録している生活・身体・栄養状況記録などを参考に、事前に法人の医療連携担当看護師に利用者の情報をファックスで伝え、看護師や管理者が同席している。専門医への受診は事業所が支援をしている。緊急時には協力医療機関の協力を得て、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ゆめの里では、糖尿病の方が3名、関節リウマチの方が2名と重い持病を持っておられる方が多く、看護職との連携が不可欠となります。異常の早期発見に努め、少しでも気になることがあれば、施設ナースに相談し、指示を仰いでいます。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院した場合には、施設ナースを通し定期的な報告が受けられるようになっています。退院後も医療関係機関との連絡を密に取り、相談、指示が受けられる関係作りをしていきたいと思っております。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化した場合における対応にかかる指針をご家族、もしくは保証人の方に渡し、予め重度化した場合における対応について説明をしています。また職員全員が看取りの研修を受け、ターミナルケアも視野に入れた体制作りに取り組んでいます。	法人の指針があり、契約時に家族に事業所でできることについて説明し、看取り介護同意書への署名を得ている。職員の研修を行って看取りに取り組む体制づくりをすることにし、実際に重度化した場合には早い段階から関係者で話し合い、方針を共有して支援に取り組むことにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒時、誤薬などの緊急時には24時間オンコールで施設ナースの指示を仰いでいます。転倒のリスクの高い方は常に見守り付き添いを行い、予防に努めています。急変時、事故発生時にはマニュアルを作成しています。定期に応急手当、初期対応を行えるように訓練を行う機会を設けることが課題になります。	入居者事故状況報告書に、発生の原因、対策、予防について当日の職員が記録し、管理者に報告している。管理者は法人に報告し、必要に応じて法人や管理者から協力医療機関、家族へ連絡している。業務日誌に記録して職員が情報を共有し、月1回のスタッフミーティングやカンファレンスでケア方法を検討したり、管理者が指導するなどして事故防止に取り組んでいる。法人研修で年1回心肺蘇生法について学び、スタッフミーティングで年1回窒息時対応の訓練を行っている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っているとはいえず、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための初期対応や応急手当の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署員立会いのもと、消化訓練を行っています。昼、夜間設定の2パターンで毎年行うことになっています。また訓練の前には必ず回覧板でご近所に参加を呼びかけしています。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜間を想定して通報、避難、消火訓練を利用者も参加して実施している。緊急連絡網の通報訓練での反省を活かし、登録方法の改善に取り組んでいる。自治会長を通じて回覧版で避難訓練への参加協力依頼の文書を出し、2回とも住民で元消防署職員1名の参加を得ている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの一人お一人の性格の理解に努め、ご本人の気持ちを尊重しながら、人生の大先輩として尊敬の念をいつも心に持ち、言葉かけを行っています。	利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところは管理者が注意している。家族から個人情報保護に関する同意書を得て、写真等の取り扱いに配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がご本人の想いを伝えやすい関係作りをし、声かけ傾聴により、ご本人の思い、気持ちを知る機会を作るようにしています。思いや気持ちを聞き取った際には、記録に残し、情報を共有します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のその日のペースに合わせ、対応しています。散歩に行きたい、若い頃流行っていた音楽を聴きたい、などいろいろな希望を叶えられる様支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問病を利用し、入居者さんの希望に沿った髪型にしています。 (パーマ、毛染めなど) また衣類などはご本人と一緒に季節にあった服を選び、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜の盛り付け、食器の後片付け、食器洗いなどは必ず、入居者さんと職員が行っています。もやしのひげとりなど、男性入居者さんにも声かけして、料理の下ごしらえを手伝っていただいています。	法人内グループホーム共通の献立表を活用して、三食とも事業所で調理している。利用者は野菜の皮むきや副菜の盛り付け、下膳などできることを職員と一緒にしている。年越しそば、おせち料理(赤飯、数の子、ぶりの照り焼き、柿酢、すべらもち)、ちらし寿司など季節に合わせた料理や誕生会メニュー(鮎井)、季節の行事に合わせたおやつづくり(ぜんざい、フルーツあんみつ、桜餅風クレープなど)、家族や友人の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫をして支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量はバイタル表に書き込み、職員全員が把握しています。またお一人お一人の口腔状態、嚥下状態、病歴などを踏まえ、刻み食、おかゆ、ミキサー食、カロリー制限食を提供しています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	飲み込みがスムーズに行えるよう、昼食、夕食前には必ず口腔体操を行っています。また、自立の方は毎食後に、歯磨きの声かけや口腔内の確認を行い、介助を要する方には、できるところまで歯磨きをしていただき、残りを職員が介助して、口腔内の清潔を保っています。義歯を使用している方は就寝前に外していただき、職員が消毒をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を24時間単位で、チェック表に記録し、お一人お一人の排泄パターンを職員全員が把握するようにしています。リハパン、バットを使用している方には、日中必要なときにトイレ誘導をして、布パンツへの移行を目指しています。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルト、牛乳の提供と、定時の水分補給、散策や運動レクで運動不足を解消し便秘予防に努めています。排便チェック表を毎日必ず確認し、排便が2日確認できなかった場合には、施設ナースに報告し、指示を仰いでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則的には1日おきの入浴ですが、入居者さんのご希望やその日の体調に合わせて、柔軟に対応しています。ゆったりとした気持ちで、入浴していただいています。	入浴は毎日、13時から15時30分の間可能で、利用者の体調や希望に合わせて入浴できるように支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や部分浴なども行っている。冬季にはレクリエーションの一環として足浴を行っている。入浴剤を用いたり、自立している利用者には、一人でゆっくり入浴できるよう見守りをしているなど、一人ひとりに合わせて入浴を楽しむことができるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人が、居室で自由に過ごされ、休息を取っておられます。体調の変化を見逃さず、疲れが見えるときには、居室で休むよう声掛けもしています。また浅眠や不眠が続くような場合には、施設ナースに相談し、指示を仰いでいます。場合によっては、専門医の受診も行います。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルして、職員全員が薬の内容を把握できるようにしています。また服薬介助の際には、職員同士でご本人のものであるか確認、声掛けを行い、飲み込むまでそばで見守りを行っています。お薬の量や種類が変わった時には申し送りノートや、業務日誌に書き、薬が変わったことによる状態の変化を見逃さないようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業などお一人お一人の力が発揮できる場面を毎日提供しています。生活歴からその型の趣味や楽しみを探り、毎日のレクの中に取り入れるようにしています。(歌、散歩、創作活動など)	節分の豆まき、ひな祭りで着物を着る、敬老会、ハロウィンの仮装、クリスマス会、ボランティアのフラダンスや民謡などの観賞、テレビ視聴(歌謡コンサート、ゴルフ、野球、相撲など)、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、ラジオ体操、テレビみんなの体操、プランター栽培(なす、きゅうり、ゴーヤ)、ぬり絵、七夕の飾り付け、壁飾り作り、ボーリングゲーム、紙芝居、かるた、トランプ、囲碁、ジェンガ、ぬか漬けづくり、調理の下ごしらえ、下膳、おやつづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、窓ふき、溝掃除、洗車など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、苑外を個別に散歩することもあります。月に一度は、お花見などの外出イベントを企画し、季節を感じていただけるよう支援しています。また選挙の際には、当日に地区の投票所へ出向き、投票していただいています。お買い物や個別の外出、外食などはご家族に委ねています。	初詣、季節の花見(桜、バラ、コスモス)、イルミネーション見物、選挙の投票、協力医療機関へ健康診断目的でのドライブ、散歩、野の花摘み、家族の協力を得ての外食や温泉、旅行、外泊、墓参りなど外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑内で入居者さんがお金を使用することはなく、お小遣い、必要経費などは全てお預り金として事務所預かりになっています。今後個別に買い物のイベントなどを企画して、お一人お一人のお金の管理する力を見極めていきたいと思っています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を掛けられる状態にしており、また相手からの電話の取り次ぎもさせていただいています。年賀状を出す支援も行い、毎月職員が、ご本人の様子を伝えるお手紙をご家族に出しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間は、湿度、温度が一定になるようにしています。またトイレ、浴室、玄関などの清潔を心がけています。各居室の入り口や、リビングの掲示板に季節に合わせて入居者さんと一緒に作品を作り、展示しています。季節を感じて快い空間づくりができるよう工夫しています。	共用の空間には、利用者が散歩の途中で摘んだ野の花や職員が持ってきた季節の花、観葉植物、季節に応じた折り紙の壁飾りなどを飾っている。七夕の笹飾りを飾り、利用者の願い事を書いた短冊を結んで楽しんでいる。大型のテレビが壁掛けしており、利用者は大型のソファでゆったりくつろいでいる。温度、湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごせるような工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんそれぞれが、その時その時でお好きな場所で過ごされ、話の合う方々との会話を楽しむことができるよう支援しています。お一人お一人がご自分のペースで思い思いに過ごしておられます。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者さんはテレビやご家族の写真、なじみの家具などを置いていただいています。物を置いていたら、盗られてしまうのではないかと不安に思う方には、「安全なところに物を置いておくから」と話し、違う場所に日常品を置いている、というケースもあります。個別のケースに合わせ、その方が安心していただけるような居室づくりをお手伝いしています。	居室はテレビ、椅子、衣装かけ、ワゴン、日用品(新聞、雑誌、電気シェーバー、化粧水、乳液、ヘアブラシ、鏡など)など馴染みの品を持ち込み、家族写真やぬいぐるみなどを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の能力に合わせ、居室に大きく名前を表示したり、「トイレ」と大きな文字で表示したり、ご本人が迷うことのないように支援しています。廊下に手すりを取り付け、段差を解消して移動の安全を確保しています。また、リビングから居室が見渡せるような設計になっており、お一人お一人の位置が確認できるため、迷った時の対応など迅速にできるようになっています。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆめの里

作成日：平成 27年 10月 22日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みとして緊急時の対応を月1度のミーティングや法人研修にて学んでいるが、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない為全スタッフが実践力を身につけるまでには至っていない。	全スタッフが実践力を身につけるために初期対応や、応急手当の定期的訓練を実施し、事故防止や事故発生時の対応に備える。	月1回の定例ミーティングにて内部研修として緊急時の対応についての取り組みを行う。テキストで学び、全スタッフが実践力を身につけるまで、繰り返し訓練を行う。	1年間
2	14	内部研修において、各スタッフからの課題提供があまりできていない。法人研修では様々なテーマを取り上げて話し合いがされているが、苑内での研修が充実しているとは言い難い。	スタッフの意見を取り入れた内部研修の実施。ゆめの里で学びたいことを明確にして、スタッフ全員で取り組む。	月1回の定例ミーティング、必要に応じて臨時のミーティングを開催し、スタッフ一人ひとりが今取り組みたい課題を提供し、その課題について全員が学び、知識を共有する。	1年間
3	36	年に2回避難訓練を行い、通報、避難、消火訓練を行っており、ご近所の消防署OBの方の協力を頂いているが、それ以上の広がりにつながらない。	消防署OBの方の協力を仰ぎ、近隣の方々と連携した避難協力体制を築く。	自治会の防災班の会合に参加し、自治会の防災における体制について学ぶ。避難訓練の際には、自治会にお知らせして、広く参加を呼びかける。協力していただいた方の意見を取り入れた消火計画を作成する。	1年間
4	1	理念についての話込みがまだ足りないのが現状である。事業所内に掲示しているが、理念にそった対応であるか、と自問することはあまりない。	理念の内容を丁寧に理解し、それに基づいた対応を心がける。	定例ミーティングにて、理念について今一度確認作業を行う。事業所理念が入居者様への日ごろの対応につながっているかを意識する。理念の読み合わせを行う。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。